

「念仏と私」

高岡教区五位組 組長 織田隆夫

2012年
(平成24年)
5月29日

五位組だより

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区 五位組
題字・織田隆夫

平成十九年の四月より五位組組長の重責を担って五年間が過ぎました。この五年間を振り返ってみますとあまりにも多くの変化があり未だ何から整理していいのかわかりません。出逢った多くの方々、別れてきた多くの生命、ただひたすら、がむしやりに駆け抜け、五位組の大地が揺れ動いた時間でした。疲れを知らない住職方々、氣力迫力の若院パワー、笑って支えてくださる坊守・門信徒各位、総てが暗中模索チャレンジの連続でありました。そんな中、ただお念仏だけが頼りであり、お念仏一つで走って来たような気がします。本当にありがとうございます。本年は役員改選の年でありましたが、七五〇回大遠忌法要を終え今後五十年間を見据えた新たな時代の準備のために、もう一期組長職を担えとのご拝命を受け二〇一五年までの四年間また皆様と共に歩ませていただく事となりました。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

さて、昨年の東日本大震災から一年三ヶ月が経とうとしております。私はこの一年間の活動を通して震災から、被災者の方々から多

くのことを学ばせていただきました。特に放射能災害の悲惨さは今後五十年〜百年間向かい合わなければならぬ現実です。それは親鸞聖人からの問いでもありました。前回の「五位組だより」に「念仏と支援活動」をテーマに投稿いたしました。今回はもう少し踏み込んで考えてみたいと思います。

・浄土真宗に帰すれども

真実の心はありがたし

虚仮不実のわが身にて

清浄の心もさらになし

・無慙無愧のこの身に

まことのこころはなければ

弥陀の廻向の御名なれば

功徳は十方にみちたまふ

・小慈小悲もなき身にて

有情利益はおもふまじ

如来の願船いままさずば

苦海をいかでかわたるべき

(愚禿悲歎述懐和讃)

親鸞聖人は愚禿悲歎述懐和讃でこのように詠まれております。わが身に、人を助ける心など、微塵も無かった、どうしようもない私であった、という自覚に立つことが真宗の出発点であります。これを「機の深信」といいます。自分には「人を哀れむ心」などまったく無いと気づき慙愧したとき、そのような悪人であることを見通したうえで、この私を救う本願(信心)にであうのです。信心をいただき続けることでしか慈悲(人を哀れむ)の心など生まれてはこなかったと、悪しき者の自覚(慙愧)が慈悲に転換していくのでありましょう。悲惨な状況をこれでもかこれでもかと思え付けられて、やっとな、かわいそうとい

う気持ちが起こったのが本当であります。かわいそうと思いやる心は、最初から私にあってたのでは無く、被災に苦しむ人々が発した悲鳴を受け止めることによって、後から与えられたのであります。もともとあったのではなく、縁によって生まれていたのでした。発信されていた悲鳴を今まで聞いてはこなかった、その慙愧の心から人々に寄り添ったとき、そこに自分の救いも開かれ「被災者によって私が救われていた」ことに出会うのであります。

支援活動とは、念仏者の活動ではなく、念仏者を育てる活動が災害支援活動でありました。念仏者だからやらねばならないことなど何もありません。念仏者はお念仏を称えていなければならないのです。それ以外に何もすることなどありません。はつきりと言って、私たちは、如来より賜りし信心の眼を通し、社会の問題と向き合ってきたのでしょうか。疑問に感じもせず向き合ってきた私たちは何者だったのでしよう。実を言うと、念仏者で無いから活動するのです。被災した方々、放射能によって汚染された大地から如来の願(念仏)を学ぶのです。今日から、念仏を受け止めて生きようとする道を歩み始めることはできるのです。自分自身の苦悩にさへ向き合ってこなかった私が、常に如来の本願(念仏)によって明らかにされているのですから。どうぞお念仏の日暮しをさせていただきます。まじやう。

高岡教区・五位組では今後も現実から目をそらすことなく支援活動を継続していきたくと考えております。ご支援よろしくお願ひいたします。

福田山 廣濟寺 高岡市笹川

廣濟寺は高岡市笹川にある本願寺派（お西）のお寺です。お寺の真横にはJR北陸本線が走っており、周辺では国道八号線・能越自動車道、現在は北陸新幹線や高岡市野球場の建設工事でも賑わっている、まさに高岡の新しいパワースポットともいえるべき点に位置しています（笑）。

自坊紹介



廣濟寺の始まりは室町時代。一四五二年にこの笹川の地を開墾し建立されました。その後一五八二年に火災にて本堂焼失。現在の本堂は一五九二年に再建され、その後幾度かの修復を経て現在に至っています。

もう間もなく迎える夏休みに、地元笹川の小学生たちが朝早くからラジオ体操をしてお寺に集まっています。この光景は戦前から続いているそうで、朝六時前になると子供たちが本堂にやってくる宿題などのお勉強、そしてラジオ体操が終われば、今度は皆で仏さまに朝のお勤め。その後さらに本堂のお掃除。これが夏休みの間続きます。ですから廣濟寺の本堂は夏休みが一番ピカピカかもしれません（笑）。



そしてこの伝統によって、笹川で育った人たちは、仏さまへのお勤めに小さい頃から慣れ親しんでおられ、大変有り難いご教化ともなっています。

現在の廣濟寺の活動は、ホームページ（<http://kosaji.net>）、また寺報といった形で皆さんに紹介させていただきます。

五位組で行っている活動も紹介していますので是非アクセスしてみてください！

五位組第十期連研が開講

連続研修会（連研）は、「名ばかりの門徒や形だけの僧侶であつてはならない。現実社会の色々な問題に直面する中で、阿弥陀如来の願いにたずね、自らの進むべき道を問い、念仏をよりどころにする門徒僧侶でありたい」という願いから始まりました。この研修会では、話し合い法座を重視します。十人弱のグループに別れ、受講者みんなが仏教や浄土真宗に関する「十二の問い」（仏壇・お経から現実の社会問題と仏教についての問い）に対する思いや印象を語り合うものです。み教えに問い・聞き・語ることによって、お互いが支えあう仲間であったことにめざめ、如来に照らされていることに気づく場が話し合い法座です。この話し合い法座を通して、門徒僧侶、地域年齢といった「枠」を超えた「本当に心の通い合う仲間」を作っていきます。

最初は難しいかもしれませんが、しかし、十二回の研修を通してそうなっていくことを願っております。共に学び語り合いましょ。

浄永寺住職が牧水短歌大会で
最高賞・大賞を受賞

昨年、歌人・若山牧水の出身地、宮崎県日向市で「第一回青の国若山牧水短歌大会」が開催され、応募数四二二二首の応募の中から福岡町上向田の浄永寺の齋藤芳攝住職さんが最高賞・青の国短歌大賞に選ばれました。

その歌を紹介します。

大津波 これほど蹂躪されたるも

海に怨みをもつ人はなし

その他、齋藤住職が昨年作られた歌を紹介します。

僧侶らは作業服着て被災地へ
慣れぬ手つきで支援の炊き出し
放射能汚染の相馬へ支援米を
祖先移住せし富山の農家



聖谷山 浄永寺
齋藤芳攝 住職
(雅号 雪石)

祠堂経法座ご案内

各寺院の祠堂経法座の日程をお知らせします。

どうぞお誘い合わせの上、お参りください。

お齋等の詳細については、各寺院にお問い合わせください。

※ 開催日順に記載しております。

笹川 廣濟寺

六月三日 朝 九時三十分 昼 二時
六月四日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市内島 岡西 法英 師

四日市 浄明寺

六月九日 昼 二時
六月十日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

内島 教願寺

六月十日 昼 二時 夜 七時
六月十一日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 富山市水橋 石川 了英 師

麻生谷 西光寺

六月十五日 朝 九時三十分 昼 二時
六月十六日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 氷見市布施 圓山 望 師

上向田 浄永寺

六月二十三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 射水市市井 公文名 眞 師

赤丸 性宗寺

七月一日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 福岡町大野 新原 忠男 師

石堤 長光寺

七月一日 昼 二時
七月二日 朝 九時三十分 昼 二時
七月三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 氷見市脇 寺西 良夫 師

辻 西福寺

七月九日 昼 二時
七月十日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 射水市朴木 青木 哲隆 師

三日市 光源寺

七月九日 昼 二時
七月十日 昼 二時
法話 小矢部市西中 平野 信教 師

立野 永念寺

八月二日 昼 二時
八月三日 朝 九時三十分 昼 二時
法話 未定

山岸 珉照寺

八月二十三日 昼 二時三十分
八月二十四日 朝 十時 昼 二時三十分
法話 小矢部市興法寺 立川 証 師

黎明講座のご案内

各寺院の黎明講座の日程をお知らせします。どうぞお誘い合わせの上、お参りください。

山岸 珉照寺

七月二十八日 朝 五時～六時
七月二十九日 朝 五時～六時
七月三十日 朝 五時～六時

三日市 光源寺

七月三十一日 朝 五時～六時

笹川 廣濟寺

七月三十一日 朝 五時三十分より
八月一日 朝 五時三十分より

石堤 長光寺

八月一日 朝 六時～七時
八月二日 朝 六時～七時
八月三日 朝 六時～七時

内島 教願寺

八月十三日 朝 五時三十分より
八月十四日 朝 五時三十分より
八月十五日 朝 五時三十分より
正信偈、法話四十五分、十五日は戦没者追悼法要

◆◆◆ 五位組行事予定 ◆◆◆

第十期連続研修会

(開催中)

二〇一二年四月～
二〇一三年七月
毎月第二日曜日
十九時～二十一時半

各回に事前学習会を開催

ビハーク研修会

仮設住宅訪問のころろえ
二〇一二年
六月十七日(日) 十九時
長光寺

夏休み子ども大会

(第十四回)
二〇一二年
八月一日(水) 九時半
廣濟寺

両講合同夏期研修会

二〇一二年
八月三日(金) 十三時
いぶし荘

編集後記

東日本大震災から一年
余りが経ちましたが、東電
原発廃炉の方向も進んで
おらず、住民は底知れぬ不
安に苛まされています。私
達は苦悩する人々に無関
係ではおれません。
五位組では第十回連研
研修が四月より開催され
ています。共に悩みを聞
き、共に語り合う、話し合
い法座が中心です。
今回より連続掲載とし
て五位組の自坊紹介を掲
載させていただきます。

合掌



連研第1回 研修会
話し合い法座